

問1 地形図において、地表の同じ標高（海拔高度）の地点を結んだ仮想の線であり、この線の間隔が狭い場所は急勾配を、広い場所は緩勾配を示すことで、地形の起伏や傾斜の度合いを表現する図法上の線の名称を何というか。（2013年 全国公立入試 類似）

1. 主曲線                      2. 等高線                      3. 計曲線                      4. 等深線

問2 地域調査において、崖や斜面の補強に土管や甕が再利用されている様子やその微細な分布を調べようとした。しかし、土地の起伏や主要な道路・建物などを一定の基準と縮尺で描いた国土地理院発行の一般的な実測図からは、このような極めて局所的な構造物の分布を判読することはできない。この、微細な情報の判読に限界がある、地域調査で基本資料として用いられる地図を何というか。（2014年 全国公立入試 類似）

1. 統計書                      2. 古地図                      3. 地形図                      4. 郷土誌

問3 日本の諸地域において、等高線が山側へ食い込んでいる谷の出口（谷口）を堰き止めて造られた人工の貯水施設で、豪雨や地震による決壊時に下流へ浸水被害をもたらす危険性があることから、到達時間や浸水範囲を示したハザードマップの作成が進められているものを何というか。（2026年 全国公立入試 類似）

1. 用水路                      2. 貯水池                      3. 遊水地                      4. ため池

問4 人工衛星や航空機などを利用して、対象物に直接触れることなく、電磁波を用いて地表の植生分布や地表面温度などを広範囲に観測する技術がある。この技術は、電磁波が海水を透過しにくいいため深海の地形を直接詳細に読み取ることはできないという限界を持つが、環境問題の監視や災害状況の把握などに広く活用されている。この技術の名称を何というか。（2007年 全国公立入試 類似）

1. アメダス                      2. ジーピーエス                      3. ランドサット                      4. リモートセンシング

問5 特定のテーマや目的に応じて、必要な情報を強調したり簡略化したりして作成された地図を何というか。この地図の具体例である観光用の地図などでは、利用者の見やすさを優先して道路や建物の配置がデフォルメされていることが多く、正確な距離や方位を測定できない場合がある。（2016年 全国公立入試 類似）

1. 一般図                      2. 主題図                      3. 実測図                      4. 編集図

問6 日本の地方都市において、かつての主要な交通路に沿って形成された古い家屋が密集する狭隘な街並みは、自動車交通の急速な普及に対応した道路の拡幅や近代的な整備が行われなかったことで、今日まで保存されることとなった。このように、自動車が生活や産業の主たる移動手段として普及した社会現象を何というか。（2024年 全国公立入試 類似）

1. コンテナリゼーション                      2. モータリゼーション                      3. モーダルシフト                      4. パークアンドライド

問7 現代社会において、カーナビゲーションシステムやスマートフォンの地図アプリなどに広く応用されており、宇宙空間にある複数の人工衛星から送信される電波を受信することで、地球上における受信機の正確な現在位置を測定するシステムを何というか。（2012年 全国公立入試 類似）

1. ICT                      2. ITS                      3. GIS                      4. GPS

問8 潮の満ち引きによって、満潮時には海面下に沈み、干潮時には陸地として現れる砂泥質の平地で、小鳴門海峡周辺などでは埋め立てによって大規模施設や工業用地に利用される一方で、生態系保全の観点から保護が議論されることもある沿岸地形を何というか。（2013年 全国公立入試 類似）

1. 潟湖                      2. 砂嘴                      3. 干潟                      4. 砂州

問9 過去と現在の土地利用や交通網の変化を比較・分析する際に用いられる、国土地理院が発行する、等高線や地図記号を用いて地表の様子を詳細に描いた一般図を何というか。（2017年 全国公立入試 類似）

1. 主題図                      2. 一般図                      3. 統計図                      4. 地形図

## 答え合わせ・解説 No.1

問1	答え 2 等高線	地形図において、標高の等しい地点を結んだ線を等高線と呼ぶ。等高線の間隔は傾斜の度合いを表しており、間隔が狭い（密である）ほど傾斜が急（急勾配）であり、間隔が広い（疎である）ほど傾斜が緩やか（緩勾配）であることを示す。これにより、平面の地図上で立体的な地形の起伏を読み取ることができる。
問2	答え 3 地形図	土地の起伏や主要な建物、道路などを縮尺に応じて表現した地形図は、地域調査の基本資料として広く用いられるが、土管や窰を再利用した壁のような極めて局所的かつ微細な構造物の有無や分布までは表現されない。このような地形図の限界を補うためには、現地での実地調査（巡検）や聞き取り調査、あるいはより詳細な大縮尺の絵図や土地台帳などの文献調査を組み合わせる必要がある。
問3	答え 4 ため池	地形図において、等高線が山側へ食い込んでいる谷の出口（谷口）を堰き止めて造られた貯水施設は「ため池」と呼ばれる。降水量の少ない瀬戸内地方などで農業用水を確保するために古くから造られてきたが、老朽化や自然災害による決壊リスクが指摘されており、ハザードマップによる防災対策が進められている。決壊時には下流へ水が流れるため、決壊地点から離れるほど浸水が始まるまでの時間は長くなり、浸水深は浅くなる特徴がある。
問4	答え 4 リモートセンシング	人工衛星や航空機から電磁波を照射・反射させたり、地表から放射される赤外線などを測定したりして、離れた場所から地球の表面を観測する技術をリモートセンシング（遠隔探査）と呼ぶ。この技術は、陸上の植生分布、地質、地表面温度などの観測に極めて有効である。しかし、電磁波は海水をほとんど透過しないという物理的特性があるため、水深の深い海溝などの海底地形を直接詳細に観測することは困難であり、海底地形の調査には主に音波を用いた音響測深などが用いられる。
問5	答え 2 主題図	特定の目的のために特定の要素を強調・簡略化して描かれた地図を主題図と呼ぶ。これに対し、多目的に利用できるように地表の事象を網羅的に描いた地図を一般図（地形図など）と呼ぶ。観光地図は主題図の一種であり、観光客の利便性を最優先してデフォルトされているため、正確な縮尺や方位が維持されていないことが多い。
問6	答え 2 モータリゼーション	自動車が発達して普及し、人々の生活や産業において自動車交通が中心的な役割を果たすようになる現象をモータリゼーションと呼ぶ。モータリゼーションが進化した地域では、道路の拡幅やバイパス道路の建設、郊外型ショッピングセンターの進出などの再開発が行われることが多い。一方で、こうした大規模な土地変更や道路整備が行われなかった旧街道沿いなどでは、狭隘な道路と古い家屋の並びといった歴史的景観がそのまま残される傾向にある。
問7	答え 4 GPS	宇宙空間にある複数の人工衛星から発信される電波を受信機で捉え、その電波の到達時間の差などを基に、地球上における現在位置の緯度、経度、高度を正確に測定する技術はGPS（全地球測位システム）と呼ばれる。カーナビゲーションやスマートフォンの位置情報サービスなどに不可欠な技術である。なお、地理情報をコンピュータ上で重ね合わせて分析・表現するシステムはGIS（地理情報システム）、人工衛星や航空機から遠隔で地表面を観測する技術はリモートセンシング（遠隔探査）であり、これらと区別することが重要である。
問8	答え 3 干潟	潮汐作用によって形成される干潟は、浅瀬の豊かな生態系を育む場所であるが、高度経済成長期以降、日本各地の沿岸部において埋め立ての対象となり、工業用地や都市的土地利用へと変化した。小鳴門海峡周辺でも、干潟の埋め立て地に大規模施設が建設されるなどの変化が見られた。
問9	答え 4 地形図	地形図は、国土地理院が発行する代表的な一般図であり、等高線による地形の表現や、各種の地図記号を用いた土地利用、交通網、集落などの表現がなされている。時期の異なる地形図を比較することで、渡船の廃止と橋梁の建設といった交通網の整備や、土地利用の歴史的変化を具体的に読み取ることができる。